

2019/7/7

「自由」

「キリストは、自由を得させるために、私たちを解放してくださいました。ですから、あなたがたは、しっかり立って、またと奴隷のくびきを負わせられないようにしなさい。」（ガラテヤ 5:1）

「キリストは自由を得させるために私たちを解放して下さった」とありますが、今私たちは本当に自由を手にはしていると言えるでしょうか。

これまで、人が何かを認識するには、初めに私たちを押している運動がなければならないというお話をしてきました。「おなかがすく」という運動がなければ、「食べもの」というものを意識することはできないというようにです。つまり、私たちが毎日様々なものを認識して生きているということは、私たちの中に誰にも止めることのできない運動があるということです。その運動とは、神を求める運動です。私たちの魂は神のいのちで造られており、神にとらえられていて、神を知っています。そのため、潜在意識の奥底で、神を慕い求める運動が繰り返されているのです。人は、この運動によって物事を認識できるのです。

しかし、神は、この滅びる世界に暮らす方ではありませんから、この世界では神を見ることが触れることもできません。そこで、神を求める運動は、神のご性質である、永遠・自由を求める運動に変換されます。その結果、人間は、芸術や学問や社会制度など様々な方面で、自由や可能性を追求して生きています。

■ どうすれば自由を得られるのか

1. 制度ではない

自由というと、多くの人は制度的な自由を想像しがちですが、人が本当に求めているのは制度ではなく普遍的な平安です。つまり、自由を求めるとは平安を求めるとのことなのです。今、私たちは自由を獲得し、平安を得たと言えるでしょうか。

歴史上、人類は自由を求めて、戦争を繰り返してきました。その結果、現代は、過去に類を見ないほど、制度的に人権が保障され、自由が保障されています。しかし、それによって平安を手にしたかという点、皮肉なことに、むしろ不安が増えているという現状があります。つまり私たちは自由を手にはしてはいないのです。

2. 富ではない

個人的なレベルにおいても、人は自由を求め、そのために富を得ようとしています。しかし、富を手にしたら幸せになれるかという点、決してそうではありません。むしろ、富を得ると管理しなくてはならないものが増え、思い煩いは増えていきます。富は私たちを思い煩いの中に突き落とし、私たちの自由を奪っていくのです。

3. 人の愛ではない

私たちは人から愛されることで、平安を得ることができ、自由になれると思い、人から良く思われよう、愛されようとして生きています。確かに人から愛されると嬉しく思いますが、それを獲得するために、どれほど自分を犠牲にしていることでしょうか。人から良い反応を得ようとするほど、人の目を恐れ、忖度が生じ、自分の思っていることを言えなくなります。それは、もはや自由でも平安ではなく、人の奴隷です。

このように、今私たちが生きている見える世界においては、私たちが求める自由や平安は手に入らないという現実があります。私たちが考えつくことをやればやるほど不安が増え、問題が増え、思い煩いが増えるという逆の結果になってしまうのです。

この世界で魂が求める自由が得られないのには、理由があります。それは、この世界は滅びるからです。この世界にあるものはすべて滅んでしまうため、本当の自由を持っておらず、平安を与えることはできないのです。何かを手にしても、それは必ず消え去るものであり、平安を手にするにはできず、自由になれないのです。

■自由は見えない世界にある

私たちは見える世界に生きていますが、魂は永遠なる世界を知っています。つまり、私たちは見える世界と見えない世界の間に立っているのです。私たちは見える世界の五感で、魂が求める自由を手に入れようともがいていますが、それを与えることができるのは、見えない世界です。聖書はそれを神の国と呼んでいます。私たちが求めているものは、神の国に存在するものなのです。

見える世界は、何ができるか、行いがすべてを決定し、行いで人の価値を判断します。しかし、見えない世界は信仰がすべてを決定します。行いはまったく関係ありません。

今、私たちはその中間に立って生きているのです。あなたは、どちらに軸足を置くことを求めますか。

「よく聞いてください。このパウロがあなたがたに言います。もし、あなたがたが割礼を受けるなら、キリストは、あなたがたにとって、何の益もないのです。割礼を受けるすべての人に、私は再びあかしします。その人は律法の全体を行なう義務があります。律法によって義と認められようとしているあなたがたは、キリストから離れ、恵みから落ちてしまったのです。私たちは、信仰により、御霊によって、義をいただく望みを熱心に抱いているのです。キリスト・イエスにあっては、割礼を受ける受けないは大事なことではなく、愛によって働く信仰だけが大事なのです。」

(ガラテヤ 5:2-5)

「割礼」というのは、行いを象徴する言葉です。人間は、見える世界での価値を決める基準として、様々なルールを作って、それをクリアすれば素晴らしいことだと認めるシステムを

作り上げました。私たちは知らず知らずのうちにこのルールの中で、人からほめられよう、認められようと思って、頑張っている。人が作ったルールの中で、一番になったら幸せになれるのだと思って、一生懸命競争して頑張っている。そのために、見えない世界でも同じようにして平安を手に入れようとするのですが、見えない世界は信仰しか役に立ちません。行いで自由を手に入れることはできないのです。もし、そんなことができるなら、キリストの十字架は無意味だったと、この聖書箇所は語っています。

行いではなく、信仰で自由を獲得するには、どうすればよいのでしょうか。

■信仰で自由を獲得するには

1. 義務を果たす

行いではなく信仰で自由を手にする第一ステップは、義務、すなわち神の律法を守ることによって、心を神に向ける準備をすることです。「行いではないと言いながら、いきなり行いか！」と驚かれそうですが、見える世界で生きる私たちは、行いを基準にして生きることになんともなく慣れ切っています。そのため、その心の向きを変え、神の方に向ける準備が必要なのです。それを教えているのが律法です。つまり、律法の義務を果たすことで、心を神に向ける準備が整うのです。

神の律法の筆頭は、モーセの律法です。その第一は、「神を愛しなさい」という戒めに集約され、そのために礼拝を第一にしなさいと教えられています。あなたは自分の生活を、礼拝を守ることを第一優先にして組み立てているのでしょうか。様々な予定を立てた後に暇があったら礼拝に出るという姿勢では、完全に見える世界に向いていると言わざるを得ません。しかし、見える世界の価値観で人からの評価を基準に生きる私たちは、なかなか神を第一にせよと言われても実行できないものです。そこで、私たちの弱さをよくわかっていらっしゃる神様は、律法というものを使って、強制的に礼拝に出るように教えたのです。そうしないと、その後の信仰が働かず、何も始まらないからです。

十分の一を神に捧げるように教えているのはなぜか、お金のあるところに私たちの心があるからです。心がお金に引き寄せられていくので、お金を神に捧げることで、神に心をむけることができるのです。奉仕という行いもまた、神に心をむけるためのものです。

このように、神は私たちをキリストへの信仰に導くために律法を与えたのです。

「こうして、律法は私たちをキリストへ導くための私たちの養育係となりました。私たちが信仰によって義と認められるためなのです。」(ガラテヤ 3:24)

律法は、私たちに自由を得させるための養育係です。律法を実行しようとして、自分の力ではできないと気づいたら、神に助けを求めれば良いのです。そうすれば信仰が神の方向に働きます。律法は信仰への導入です。律法を抜きに自由の世界を見ようとしても見ることはできません。日々の生活の中で聖書に書いてあることをまじめに実践してみましよう。

2. 見える世界の所有を断念する

「しかし私には、私たちの主イエス・キリストの十字架以外に誇りとするものが決してあってはなりません。この十字架によって、世界は私に対して十字架につけられ、私も世界に対して十字架につけられたのです。」（ガラテヤ 6:14）

「私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。いま私が、この世に生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によっているのです。私は神の恵みを無にはしません。もし義が律法によって得られるとしたら、それこそキリストの死は無意味です。」（ガラテヤ 2:20-21）

見える世界での目的を断念することを、クリスチャンは「十字架に死ぬ」とか「この世に対して死ぬ」などと言います。それは、「見えるものは神にゆだねる」という信仰のことです。何でも自分で握ろうとすると、思い煩いが増えるばかりです。子どもを所有しようとするから、子どもが思い通りにならない時に腹が立つのです。親を所有しようとするから、親が思い通りにならないと言って腹を立てるのです。仕事も人間関係もすべて神にゆだねましょう。そうすることで、すべてのことが神に感謝できるようになります。こうして、心を神に向ける信仰がしっかり働くようになるのです。

自分の人生、将来を神にゆだねることができれば、それを通して、これまで認識していなかった、見えない神の国が自分の前に広がっていくようになります。

3. 神のことばを受け取る

心を神に向けると、神のことばを食べたくなります。毎日ディボーションしたくなり、様々な出来事があるたびに、祈り、御言葉を読み、神に感謝する生活が始まります。こうして私たちの心は、見えるものではなく、見えないものに向かっていくようになります。見えない世界こそがいつまでも残るのです。私たちの国籍は天にあり、神と共に生きていく世界こそ、私たちが本当に生きる世界です。見える世界は幻で、やがて消えてしまうのですから、あなたが住んでいる本当の場所でしっかりと神と共に生きて生きなさいと聖書は教えています。それが私たちを自由にし、平安にするのです。

「私たちは、見えるものではなく、見えないものにこそ目を留めます。見えるものは一時的であり、見えないものはいつまでも続くからです。」（Ⅱコリント 4:18）

私たちの国籍は天です。信仰と希望と愛がいつまでも残る。そこに私たちのいのちがあり、私たちはその中で生きています。真の自由はそこにあるのですから、見えない世界に向かって舵を切り、真の平安を手にししましょう。